

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

チュウホクドットコム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

no
5

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします



希望の年

中北教育事務所
副所長 清水徳生

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃より中北教育事務所の地域教育関連事業への御理解と御協力をいただき深く感謝いたします。

昨年10月20日、コラニー文化ホールにおいて、第30回勸学院祭が開催されました。会場では「学ぶ喜び」を求め続け、生きがいに満ちた勸学院生の姿を見ることができました。舞台での合唱や合奏、踊り、各種パフォーマンス等、その生き生きとした発表を知らずに見たら勸学院生とは気づかなかったと思います。

近年「少子化・高齢化の進行と人口減少」「社会・経済のグローバル化の加速」等、子供たちを取り巻く社会環境や生活環境の急激な変化は、子供たちの健康や成長に大きな影響を与えています。その傾向は子供に限らず、大人にも言えることで、社会全体でその対策について考える必要があります。労働人口や消費人口は減少し、経済の低迷を引き起こし、国内で衣食住どれをとっても海外に依存しない製品を見つけるのが困難な状態となりました。これらの課題の解決には、社会教育が大きな役割を果たすことになります。

未来を予想したあるデータは次のとおりです。

- (1) 2050年の世界人口は96億人(現在の1.4倍)。同年の日本の人口は9,700万人。その内の4割が65歳以上の高齢者
- (2) 2045年,人工知能(AI)が人間を超える

AI開発プロジェクト「ロボット(東ロボくん)は東大に入れるか」の4年間の取組の末、東大合格を断念しました。どうしても克服できなかったのが、人間なら説明しなくても理解できる「実生活の経験や常識、概念」を元に「問題文の意味を理解させること」だったそうです。しかし、AIは多くの受験生より成績は上位でした。その理由が、受験生の「実生活の経験や常識の不足」により「問題文の意味を理解できないこと」にあるとすれば、その対策が急がれます。「意味を理解して読む能力」は、豊かな実体験によってはぐくまれます。余談になりますが、昨年結婚したカップルは戦後最小の62万1000組。国立青少年教育振興機構の調査によると「小学校までの体験が多い人ほど、『結婚している』割合が高くなる」そうです。

今年92歳になる私の父の趣味は四季折々の自然の風景を、心象風景を織りまぜながらキャンパスに写し取る事です。その父の検診結果は「左脳には萎縮がみられるが、感性や芸術感覚を司る右脳は健康そのもの」だったそうです。続けることで年齢に関係なく伸びる力があり、維持できる能力があると感じました。

本年が皆様にとって希望に向かって大きく羽ばたく一年となりますようお祈り申し上げ、結びといたします。

山梨ことぶき勸学院創立30周年式典・第30回勸学院祭



10月20日、山梨ことぶき勸学院創立30周年式典・第30回勸学院祭がコラニー文化ホールで行われました。山梨ことぶき勸学院は、高齢者の生きがいをづくりと、地域づくりに貢献できる人材の養成を目的とした機関です。この日は、県内6教室の院生300名以上が参加しました。午前中の式典では、記念行事として山梨学院大サッカー部総監督の横森巧氏の講演が行われ、高校サッカーに半世紀以上携わってきた中でのエピソードや人生観など、興味深い話を聞くことができました。

午後からの勸学院祭は各地区教室ごとの舞台発表です。中北教室は1年生が「甲州弁ラジオ体操」と「ソーブラ音頭」、2年生がハワイアンダンス「月の夜に」と、合唱「年金時代(「青春時代」の替え歌)」、甲府教室は合唱・寸劇で1年生が「振り込め詐欺だよおっかさん(「東京だよおっかさん」の替え歌)」「人生いろいろ」、2年生が「この街で」「高校3年生」を披露しました。また、勸学院祭のテーマ募集で、中北教室1年の木村富喜子さんの「30年歴史の上に更なる歩み勸学院」が選ばれ、開会式で表彰が行われました。



中北教室 1年



甲府教室 2年



甲府教室 1年



甲府教室 2年

山梨科学アカデミー交流大会

「山梨科学アカデミー」は、山梨県の科学や技術の発展に寄与することを目的に、科学に理解を有する本県ゆかりの研究者や事業者により発足した公益社団法人です。その交流大会が11月28日(月)、ベルクラシック甲府で行われました。

○第14回山梨科学アカデミー児童・生徒科学賞 表彰式

- ・甲斐市立竜王小学校 6年 「森からみえる・竜王遺産」
- ・山梨大学教育学部附属中学校 科学部 「山梨の特産品であるブドウについての研究」
- ・山梨県立巨摩高等学校 生物地学部 「山梨県内のゲンジボタルの分子系統的解析」

○第21回山梨科学アカデミー奨励賞受賞講演

- ・「高等学校における課題研究の質を高める指導方法の確立とその実践」

山梨県立韮崎高等学校教諭 芦澤 暁 先生

- ・「概日時計によるアレルギー反応の制御機構の解明」

山梨大学大学院総合研究部講師 中村 勇規 先生

○特別講演「母国語で学ぶ自然科学」

2000年ノーベル化学賞受賞 筑波大学名誉教授 白川 英樹 先生



表彰式の後、児童・生徒科学賞を受賞した3校の児童、生徒たちがパワーポイントを使って研究内容を要領よく説明しました。また、特別講演で白川先生は、「言語には、伝達だけでなく思考の道具としての機能がある。ノーベル賞自然科学三賞の日本人受賞者は欧米諸国と比べると少ないが、アジア諸国の中では際立って多い。他のアジア諸国と違って、日本では理科や自然科学の教科書が母国語である日本語で書かれたものを使い、日本語で学んでいるからではないか。日本語には、科学を自由自在に理解し、創造するための

用語、概念、知識、思考方法が用意されている。これは奈良・飛鳥の時代から幕末、明治に至るまで、海外の知識や技術を意欲的に習得し、それを苦労して日本語化してきたおかげである。母国語で自然科学を学べるのは幸せなこと。」とおっしゃっていました。ただし、「英語を学ばなくてよいわけではありません。」とも。講演後の質疑応答でも活発なやりとりが行われ、充実したひとときとなりました。

放課後の子どもたちのサポート紹介

甲府市放課後子どもプラン推進事業 国母小学校

甲府市は現在放課後子供教室が9教室、放課後児童クラブは直営25箇所、保育所等への民間委託10箇所あります。管轄の異なる子供教室と児童クラブですが、市ではより教育効果を高めるため、子供教室の共通プログラムに児童クラブの子が参加でき、子供教室と児童クラブを同じ敷地で行う取り組みを平成24年度から新紺屋小学校、そして今年度から国母小学校で実施しています。

11月25日、山梨県放課後子ども総合プラン推進事業第2回推進委員会があり、国母小学校の放課後児童クラブと放課後子ども教室を視察しました。

児童クラブと子供教室の教室は隣り合わせになっていて、別棟の校舎の中にあるため、授業をしている学年への影響はほとんどありません。子供教室の活動内容で



体育館を利用するプログラムも移動は簡単です。この日は、ヒップホップダンスをスポーツジムのインストラクターの方が指導していました。最初は恥ずかしがっていた子ども達も、回を重ねる毎に緊張が

ほぐれ、上手に踊れるようになってきたそうです。子供教室と児童クラブは、立場やねらいに違いがあり、一緒にやっていくことは難しいようです。ただ、子ども達には、一体化で活動の幅が広がったり、参加しやすくなったりしてメリットは大きいといえます。



南アルプス市放課後子ども教室 青少年児童センター南風

南アルプス市山寺にある「青少年児童センター南風」では、毎月第2水曜日「小学生英会話教室」(小2~4)を開いています。12月14日、活動の様子を見学させていただきました。講師は山梨大学英语科4年生の岩井さん、多田さん、3年生の土屋さん、1年生の尾崎さんです。この日のテーマはクリスマス。

はじめに、尾崎さんが、リースを飾る意味は、など興味深いクリスマスに関する三択クイズ。次に、岩井さんが中心にツリーに飾る、鈴や星、リボンや飴など、絵カードを使って英語で発音し、子どもたちが唱えて覚えていきます。それから、クリスマスツリーづくりの活動です。一人ひとりが自分の欲しい6つの飾りのシールを求め、4人の先生に英語で



話しかけて、シールをもらいます。はじめはうまくできなかった子どもだんだんと上手になりました。児童館の職員の方は、「とにかく子どもたち、先生が大好きなんですよ」と教えてくれました。3年生の土屋さんは「子どもたちがとてもかわいいです。どうしたら楽しんでくれるかなと考え、活動を工夫しています」と、また、岩井さんは、「先輩方から受け継いできたこの事業を、後輩に引継ぎたい」と笑顔で語ってくれました。



子どもの命を守るためのカリキュラム 放課後子ども総合プラン指導者研修会



今年度最後の放課後子ども総合プラン指導者研修会が12月8日(木)、リバーズ和戸体育館でありました。この日は、かけがえのない命を大切にできる心と体づくりを目指して活動しているボランティア団体「リズムオブラブ」代表の渡辺光美さんを講師に、児童クラブ等で有効な防災・防犯訓練を楽しく行うプログラムを体験しました。防災対策というと食料や防災用品の備蓄と考えがちですが、最も大切なのは「自分の命は自分で守る」という意識をもつことで、備蓄は3番目だそうです。地震の訓練では、机の下にもぐれない場合も想定して、「カメ」、「ウサギ」、「コアラ」3つの体勢を練習しました。また、防犯訓練に関しては、危険を察知して回避し逃げ



また、防犯訓練に関しては、危険を察知して回避し逃げ

ることが重要で、想像力、判断力、瞬発力、コミュニケーション力、精神力の5つを鍛えることが有効だそうです。「いかのおすし」という防犯標語は知られていますが、実践するのは簡単ではありません。危機に直面すると、子どもは(大人も)固まって動けなくなってしまい、声も出なくなってしまいます。だからこそ日頃から大きな声を出したり、他の人に知らせるなどの訓練が必要です。ちなみに「安全基礎体力」とは、「助けて」と叫びながら、3分間走り切れる体力だそうです。



講師の渡辺さんは2008年まで小学校の先生でしたが、大阪・池田小事件をきっかけに「命を守る」力をつけさせたいと考えて教員をやめ、「健康安全プログラム」を広める活動を続けています。子どもだけでなく高齢者や企業向けのプログラムもそろっていて、県内各地を飛び回っています。連絡先は次のとおりです。【「リズムオブラブ」<http://www.heartandbody.net/>】

山梨県公民館活動研究推進大会

県内各地域の公民館の活動状況や成果を発表し、課題の研究討議を行う公民館活動研究推進大会が12月7日(水)、山梨市民会館で行われ、2つの事例発表がありました。

南アルプス市櫛形中央公民館豊地区分館の中込龍人館長からは、分館まつり、ふるさと講座 歴史めぐり、公民館講座、分館だより発行等、富士川町大柵地区公民館の岡崎紀子主事からは青少年区民会議、いきいきサロン、納涼夏祭り、区民運動会、敬老会等の実施について報告いただきました。どちらも、地域の人を巻き込んで活発な活動をしている点が素晴らしいと思います。人口減少、高齢化、予算削減などの課題は他の地域にも共通する課題ですが、地域を維持していく上で公民館関係者の人脈や情報網はとても貴重です。これらを生かした活動を期待しています。



アグリフェスタ2016 ～農業系高校の合同展示会・体験&農産物販売～

県内で農業系の学科を持つ北杜、農林、笛吹の3つの高校が合同して行う「アグリフェスタ2016」が12月17、18日、防災新館で行われました。このイベントは、生徒の活動の成果を広く知ってもらうため、生徒が作ったものを展示、販売するイベントで、今年2回目となります。

「県民ひろば」では農産物や加工品の販売が行われ、シクラメン、ポインセチアなど季節の花が市価よりも安く並んだほか、果物の瓶詰めや味噌なども置かれ、通りかかった人たちが買い求めていました。また、「オープンスクエア」では、生徒の研究成果をまとめたポスターやフラワーアレンジメント、クリスマスリースなど日頃の活動がわかる品々が展示されていました。生徒諸君の頑張りが感じられるイベントで、ぜひ多くの方に来場してもらいたいと思いました。



販売会場の様子



クリスマスリース



坪庭



フラワーアレンジメント

[お知らせ]

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

期 日：平成29年 2月23日(木) 14:00~16:30

テーマ：「子どもの虐待

—子どもの心とそのケア—

講 師：西澤 哲 氏 (山梨県立大学教授)

平成28年度 『中北.com』 No.5

編集・発行 中北教育事務所 (飯田 矢崎)

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

カラー版は中北教育事務所のHPでご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>